平成３０年度
文化事業に関する評価報告書

令和元年７月

尼　崎　市

Ⅰ　評価について

１．趣旨

文化芸術基本法では「地方公共団体は、基本理念にのっとり、文化芸術に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」と定められています。

こうしたなか、尼崎市では本市の最上位計画にあたる「尼崎市総合計画」の部門計画として策定した尼崎市文化ビジョン（以下「ビジョン」という。）において「本ビジョン推進にあたっては市は責任を持って文化芸術振興の役割を担う。」「文化の担い手である市民が主体的に活動を展開していくため、市は情報提供・相談などのサポートを行う。」と定めており、本市における文化の位置付けや責務を明確に示しております。

このビジョンを着実に推進するためには、文化事業の進行状況を管理し、必要に応じて改善していくことが重要です。そこで、行政評価と行政運営を連動し、文化施策・事業のPDCAサイクルを運用していくため、本市が実施する文化事業の評価を行います。

２．評価の対象等

ビジョンでは文化を広義に捉えていますが、実効性のある取組を示すため、芸術分野を中心とした狭義の文化を主に対象とし、次の項目に全て該当する事業を評価対象事業とします。

⑴　市の予算により実施されている事業

⑵　継続性のある事業

⑶　狭義の文化（文化芸術基本法第８条から第１４条までの項目（出版物、レコードを除く））（下表のとおり）に関連する事業

芸術	文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊
メディア芸術	映画、漫画、アニメーション、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術
伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能
芸能	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能
生活文化	茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化
国民娯楽	囲碁、将棋その他の国民的娯楽
文化財等	有形及び無形の文化財並びにその保存、修復、防災対策、公開等への支援
地域における文化芸術	各地域における文化芸術の公演、展示、芸術祭等への支援、地域固有の伝統芸能及び民俗芸能（地域の人々によって行われる民俗的な芸能をいう。）

なお、公益財団法人尼崎市文化振興財団（以下、「文化振興財団」という。）についてはビジョンの中核と位置付けているため、市の補助金により実施している事業を基本に評価を行います。

３．評価の方法

文化の効果を評価するにあたっては、定量的な評価や単年度ごとの指標による判断に留まることのないよう、次の２つの異なる手法により、本市の文化事業がビジョンの取組の柱に沿った内容になっているか定量的視点と定性的視点から併せて評価を行います。

○本市の取組の柱
⑴　若い人の夢とチャレンジを応援する
⑵　育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる
⑶　市民の芸術体験を支える

①　現地視察を踏まえた評価

ビジョンの取組の３つ柱について、毎年度、それぞれ１事業ずつ選出した３事業を対象として、文化・芸術に造詣の深い専門家等（以下「専門家」という。）による現地視察での意見を踏まえた評価を行う。

②　個別事業に係る評価

対象の全ての事業について、達成年度の目標値及びビジョンの取組の柱に沿った事業展開を実施できたかという２つの項目を組み合わせて個別事業を評価する。

評価	目標値に対する評価 （定量評価）	取組の柱に沿った事業展開 （定性評価）
A	目標以上の達成ができた。 （100%より大きい）	実施できた。
B	概ね達成できた。 （80%以上 100%）	実施できた。
C	概ね達成できた。 （80%以上 100%）	実施できなかった。
	達成できていない。 （80%未満）	実施できた。
D	達成できていない。 （80%未満）	実施できなかった。

Ⅱ　平成３０年度事業評価（現地視察を踏まえた評価）

取組の柱１．若い人の夢とチャレンジを応援する

将来を担っていく若い人の夢を後押しし、飛躍のきっかけとなる機会を提供することで、尼崎が夢とチャレンジを応援するまちであるというメッセージを発信し、そのメッセージが届くことで、新しいもの・ことにチャレンジする人が集まってきます。ビジョンでは取組の柱の最上位に位置づけ、この取組を推進していくこととしております。

【尼崎落研選手権】

尼崎市は人間国宝・桂米朝氏が在住されていたこともあり、地域寄席や落語勉強会が市内各地で盛んに開催されています。「落語」を尼崎の魅力として発信するとともに、「若い人の夢やチャレンジを応援する」取り組みの一つとして、大学生による「尼崎落研選手権」を開催しています。地域の方が運営する近松記念館で毎年１回、プロの落語家などを審査員に迎え、学生落語を多くの方に楽しんでいただいています。

目的	地域資源である「落語」を本市の魅力として発信するとともに、落語を発表する場を提供し、若い人のチャレンジを応援する。
実施内容	大学生向けの落研選手権を開催する。
実施期間	年１回
目標	１４校（入場校数）
実績	１１校
効果	関東など遠方からの参加者もあり、事業を継続していくことで、尼崎市が若い人の夢とチャレンジを応援するまちというメッセージの発信に寄与する。

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では「出演する大学生、当日来場した市民に対して、この選手権大会が落語という芸能文化に親しむ機会を与えている」、「多くの落語研究会の学生たちの夢とチャンスを与えている」という意見があり、学生落語の素人っぽさはあるものの、学生のチャレンジやステップアップを支援する事業であり、取組の柱に沿った事業であることや、会場は満席で市民に親しまれた事業であることがうかがえます。

また、参加した大学生に、後日、小学生に対する落語の特別授業や市民まつりでの寄席といった、さらなる活躍の場の提供など、積極的な展開に努めているとともに、過去の参加者の中から全国大会優勝者やプロの落語家への入門者を輩出しており、育成や波及効果もあると考えられます。さらに、今回は地元ケーブルテレビで番組放送したことで、地

域資源である「落語」や「若者を応援するまち尼崎」をより多くの方に発信しています。

今後のさらなる改善に向けては、開催回数を重ねていくなかで、大会そのものの知名度の向上やレベルアップが期待されます。そのためには、予算上の制約もありますが、例えば企業協賛などによって、副賞の充実をはじめ、事業そのものの魅力を向上させていくことが期待されます。

また、現在でも、多くの観客に楽しんでもらえている事業ですが、観客を増やしていくためには、広報・発信の面での取り組みが大切です。今回、ＣＡＴＶによる放送を実現できましたが、今後、特に若い世代に訴求していく観点としては、ネット配信など、若者が利用している新たなメディアの活用を視野に入れた様々な工夫が望まれます。

取組の柱２．育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる

本市には長い歴史とともに育まれてきた歴史資源や長年継承されてきた伝統芸能や祭りが残っています。これらについて学び・楽しみながら、それが守り伝え活かされていくよう、歴史資源等に関連した事業を実施し、歴史・伝統・文化を継承し、発展させていきます。

【古代のくらし体験学習会事業】

弥生時代の遺跡の田能遺跡に立地する田能資料館において、同遺跡の出土遺物の収蔵・展示による文化財の啓発にとどまらず、弥生文化をより身近なものとして理解するため、小学生から参加できる勾玉や銅鏡づくりなど、古代のくらしを体験できる事業を展開しています。

目的	弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展に対する認識を新たにし、市民の歴史学習を支援するとともに、文化財に対する関心を高める。
実施内容	田能資料館で勾玉、土器、銅鏡などを作る講座の他、田能資料館の学芸員や外部講師が解説と指導を行う。
実施期間	年１０回
目標	２００人（参加者数）
実績	１９８人
効果	勾玉等を作成するなど体験することを通じて、歴史に興味関心を持ってもらうことで、深く田能遺跡について学び、歴史や文化を継承するとともに、シビックプライドの醸成に寄与する。

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では事業内容について「田能資料館の開館当初から約５０年間にわたり体験学習会が実施されており、その内容も土器･石器づくりをはじめ多岐にわたる体験メニューが企画されている。」「次世代を担う子どもと親を対象としている今回の「勾玉をつくろう」体験学習は、学芸員の説明やボランティアの手伝いもあり、小学生の参加者も楽しく学べており、取組の柱の内容と目的に該当している。」という意見をいただきました。

一方で、田能資料館そのものについて施設の老朽化や、交通アクセス面、小学校の見学の減少などが課題となっています。遺跡の保存に向けた市民運動の経緯もあり、国の史跡に指定されている田能遺跡は今後も保存と活用が必要です。特に地域の歴史を知り、学ぶ

市内の小学生が見学する機会は大切です。こうしたなか、令和元年度から、田能資料館は文化財収蔵庫を所管する歴博・文化財担当と組織統合され、事業運営などの面での連携が期待できるとともに、懸念であった遺跡の修復も予算化されています。今後においても文化財保護と歴史・伝統・文化を学ぶ機会の充実・提供に向けて、学芸員の充実などその取り組みに磨きをかけていくことが望まれます。

取組の柱３．市民の芸術体験を支える

文化のつくり手・担い手が育っていくためには、市民が芸術に触れる機会を増やす必要があるため、芸術を「特別なもの」としてではなく、日々の暮らしの中で、呼吸をするように触れ合い、楽しめるような尼崎市を目指すことで、市民のみならず、市外の多くの人たちを惹きつけ、交流を深めていきます。

【アウトリーチ事業（美術）】

文化振興財団の職員が市内の小学校や公民館へ出向き、尼崎市が誇る世界的な画家・白髪一雄氏の画業を紹介し、子どもたち自らが白髪氏の創作手法である「足で描く」アクションペインティングを体験できるワークショップを行っています。白髪氏の作品や功績を学び郷土への愛着を深めるとともに、自由な創作の楽しさを経験する芸術体験の機会を提供し、ひいては将来の文化の担い手となるきっかけをつくります。今回の視察では小学生を対象とした公民館での事業と、保育園での事業を見学しました。

目的	市内の子どもたちが芸術を肌で体験・体感できる場を提供し、白髪氏に対する理解と郷土への愛着を深めるとともに、自由な創作の楽しさを経験することで将来の文化の担い手の育成に寄与する。
実施内容	尼崎市が誇るアクション・ペインター白髪一雄氏の画業を紹介しながら、その独創的な足で絵を描く描法を体験してもらう。
実施期間	毎年６月から９月まで
目標	年６回（実施回数）
実績	年９回
効果	郷土画家白髪一雄の功績を広め、シビックプライドの醸成を図るとともに、文化・芸術に触れた子どもたちの創作の発展に繋げる。

【評価・今後の課題】

現地視察では「芸術を肌で体験できる場を提供できている。」「身体を使った創作活動の楽しさと珍しさを体感でき、取組の目的に沿っている。」ことから、積極的に展開すべきとの意見がありました。その一方で、「子どもたちや保護者が白髪氏の芸術について理解できているか。」「美術を鑑賞する楽しさや創作への興味が起きたか。」という指摘もありました。

こうした点について、まず、白髪氏の作品や功績を学ぶという趣旨からは、ある程度理解できる年齢まで対象を引き上げることや、低年齢の子どもたちの理解力に合わせた説

明や、丁寧なふりかえりを行うなど、検討の余地があると考えられます。

また、実施の場所や回数を増やし積極的に事業を展開していくためには、この事業は財団が準備から実施までを担っていますが、学校の美術の先生と準備や運営のノウハウを共有し、それぞれで実施してもらうなど工夫が必要と考えられます。一方で、授業の一環としての受け入れについて、学校サイドでは授業のカリキュラムの余裕がない状態であり、単にお願いするのではなく、先生が主体的に授業に取り入れることを支援する工夫を検討することや、展示会に足を運んでもらえるよう日頃からの学校との連携や働きかけも必要です。

さらに、このアウトリーチ事業を実施していくにあたっては、総合文化センターでの白髪氏の展示や記念室との連携を図ることで相乗効果を高めていくことが望まれます。

なお、白髪一雄氏は１９２４年生まれで、まもなく生誕１００年を迎えることから、その節目に向けて記念事業の検討も期待されます。

Ⅲ　個別事業の評価

【評価結果】

平成３０年度に実施した評価対象事業は平成２９年度の２８事業に比べ、１事業増え２９事業となりました。個別評価の詳細については別紙のとおりですが、所管課の評価結果について昨年度と比較して全体的に向上が見られます。

また、共通する課題として「広報の開拓、周知の方法」など広報についての課題や「出演者、参加者、実行委員会の高齢化」「若い世代への新たな参加者の獲得」など、事業の長期継続等による参加者等の高齢化・若い世代の取り込みが掲げられています。

今後、落研選手権で実現したようなケーブルテレビでの放送や、地域に近い市内の様々な施設に出掛けての事業展開、広報課や各種メディアとの連携に積極的に取り組んでいくことが求められます。また、これらの発信と併せて、気軽に伝統文化に触れる機会の拡大や、創作・ものづくりの楽しさを実感する場の提供、市内の学校での周知など、若い世代の参加に向けた工夫が大切です。

（平成３０年度 個別評価集計）

取組の柱 ＼ 評価	A	B	C	D	合計
①若い人の夢とチャレンジを応援する	0	4	2	0	6
②育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	2	7	4	0	13
③市民の芸術体験を支える	3	5	2	0	10
合　　計	5	16	9	0	29

【平成３０年度の新たな事業】

平成３０年度においては、ビジョンにおける取組の柱「若い人の夢とチャレンジを応援する」取組として、新たに「尼崎市文化未来奨励賞」「公開レッスン・コンサート」の２つの事業を実施しています。

「尼崎市文化未来奨励賞」では、芸術性の高い作品等を製作し、全国規模の活動を展開しようとしている尼崎にゆかりのある若手芸術家を選考・顕彰し、市内で発表する機会を持てるように支援します。また、「公開レッスン・コンサート」は世界的指揮者である大植英次氏が市内の中学・高校の吹奏楽部生徒を対象に音楽の楽しさ・素晴らしさを伝えるレッスン・コンサートをアルカイックホールで開催しました。

これらの新たな事業が加わることで、単純に事業数をもって比較できませんが、昨年度の評価において比較的事業数が少ないとしていた「若い人の夢とチャレンジを応援する」という柱の充実につながっているものと考えており、引き続き力を入れていく必要があります。

（公開レッスン・コンサート）

Ⅳ　総括評価

今回で２度目の実施となる平成３０年度の評価では、当該年度の評価に加え、前年度の評価を受けてのふりかえりを行うなかで、PDCA サイクルにより事業効果を高めることにつなげていきます。

【視察事業に対する評価】

今回、専門家に視察いただいた３事業については、それぞれ取組の柱の方向性に沿ったものとなっており、継続的に実施することで、様々な波及効果が期待できます。

「尼崎落研選手権」は、「落語」を本市の魅力として発信するとともに、若い人のチャレンジを応援することで、本市が夢を応援するまちであるというメッセージの発信に寄与しています。

「古代のくらし体験学習会事業」は勾玉や弥生土器等を作るという体験学習をきっかけとして、市民の保存運動により守ってきた田能遺跡についての理解を深め、歴史・文化を継承していくものと考えられます。

「アウトリーチ事業」は若年層に郷土画家白髪一雄の偉業を発信するとともに、美術に触れる機会を提供しています。

一方で、それぞれ事業の趣旨や期待する効果を踏まえて改善すべき点もあり、専門家からいただいた意見については、今後においても改善を図っていくことが必要です。（Ⅱ　平成３０年度事業評価（現地視察を踏まえた評価）を参照）

【平成２９年度の評価に対する取組】

平成２９年度に視察した３事業についての改善としては、次のような改善に取り組みました。

「尼崎市演劇祭」では、演劇団体の発表の場として開催を重ねてきましたが、現状では学

生の発表が多く、その親族や友人が来場者の多数を占める状況にあります。こうしたなか、「演劇祭の歴史が長いという強みを広報すべき」という昨年度の評価を受け、公演の案内に「日本で最も歴史の長い演劇祭」との説明を加え、その市内の小学校から高校に配布しましたが、今後においても、その課題として、学校に限らず、どのようにして広く市民に演劇の楽しみを伝え、演じる側や見る側を育成していくかを考えていく必要があります。

「文楽・歌舞伎公演」については、「若い世代の取り込み」と課題に掲げておりますが、これについては本市だけの課題ではなく、効果的な手法が見いだせていない状況にあり、新たなファンづくり・掘り起こしに向けて、引き続き工夫を続けていく必要があると考えています。

「あまらぶアートラボ事業」については、令和元年度以降となりますが、ワークショップなど展示会と関連したイベント等について、Ａ－１ａｂだけでなく他の施設など市内全域で展開していくことを検討しています。

全体にかかる課題である市民・利用者のニーズの把握については、個別事業の所管課にアンケートの実施を求めており、平成３０年度は対象事業のうち、３事業で新たにアンケートを導入しました。また、文化振興財団においては、平成２９年度から自主事業についての意見を聴取する市民モニター制度を設置していますが、平成３０年度の事業について、市民モニターと文化振興財団職員が意見交換する懇話会を実施し、今後も引き続き継続していきます。

【平成３０年度以降の新たな取組】

ビジョンを推進していくためのしくみづくりとして、平成３０年度においては、新たな事業に取り組むための財源の確保や寄附文化の醸成を目的として、１１月３日（文化の日）を機に、尼崎市文化振興基金を設立しました。ふるさと納税や文化団体等からご寄附をいただいており、令和元年度については、新規事業である白髪一雄氏の巡回展や大植英次氏のレッスン・コンサートの経費に充てる予定としています。

また、この評価に取り組むにあたり、その結果を共有するため、平成３０年度に関係課等により庁内検討会議を設置しましたが、令和元年度から、各事業実施課の情報交換や相互の連携・協力を図っていくため、年間を通じて定期的に会議を開催し、文化関連事業の充実につなげていきます。

【文化振興財団との連携】

文化振興財団は、本市の文化の向上に寄与することを目的に設立され、これまでも専門的な知識とノウハウを活用し、本市の文化拠点施設として、本市から移管を受けた文化振興事業を含め文化芸術の鑑賞、体験する機会の提供などを行ってきました。

ビジョンでは、文化振興財団を本市文化の推進の中核と位置付け、多様な主体のネットワークの拠点としての役割を果たすような体制づくりに取り組むとしており、ビジョンで定めた文化振興財団の位置付けを実施していくには、文化振興財団は自発性・創造性を発揮し、特色ある文化芸術活動を積極的に展開するとともに、他の文化芸術団体や教育、福祉、観光

等の分野などとも積極的に連携・協力しながら、本市文化の振興に貢献することが求められます。こうしたことから、今後は文化芸術に関する中心的役割や、市民の文化芸術活動への助言や協力、文化芸術活動を担う人材の育成などの財団の機能を高めていく必要があります。

【今後の改善に向けて（全体を通して）】

平成３０年度の事業評価を通じて、今後、文化関連事業を進めていくにあたり、財源の確保や広報・情報発信が多くの事業に共通した課題となっています。

文化事業の拡充や新たな展開、運用体制を整えていくためには財源が必要です。本市では平成３０年度から、多くの方から協力してもらえるように、文化振興基金を設置し個人や事業者から寄付をいただいています。今後においては、こうした基金への寄付に限らず、尼崎にゆかりのある企業などからの支援や協賛、また国や各種団体からの補助金や助成金などを広く受けられるよう努めていくことが望まれます。

また、こうした支援を広く得るためには、そのきっかけとなる広報・情報発信が大切です。例えば、若い世代に発信していくのであれば、伝達手段として地上波テレビよりもＳＮＳやネット配信など、若い世代が触れるメディアを活用していくように効率的かつ効果的なアプローチが求められます。さらには、情報の発信だけではなく、受け手側の意見に耳を傾けることも重要であり、まだ情報が届いていない潜在的な受け手に訴えかけていく観点を含めて、多様な人々のニーズにかなった事業の企画立案が期待されます。

そして、こうした財源確保や広報・情報発信に努めていくことはもとより、提供する文化芸術体験、事業の内容が重要です。せっかく市民や事業者等の協力を得て事業を実施し、上手く発信できても、内容が伴っていなければ価値はありません。今後においても、この事業評価を活用するなどにより、継続的な事業の改善・質の向上に努め、市民のための文化芸術振興を充実させていくことが必要です。

以　上

平成30年度文化関連事業個別評価表　（尼崎市文化ビジョン推進懇話会）

	事業名称	課名	取組の柱	事業概要							経費		評価指標				実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価				アンケート
				事業開始年度	目的	実施内容	（主な）対象世代	実施期間	実施回数（回）	参加人数（人）	H30事業費（単位：千円）	事業に係る人件費（単位：千円）	指標名	単位	目標	達成年度	H28	H29	H30	財源獲得の努力	広報	協働	これまでの課題や改善点	改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合
1	尼崎落研選手権	シティプロモーション事業担当	若い人の夢とチャレンジを応援する 市民の芸術体験を支える	平成27年度	地域資源である「落語」を本市の魅力として発信するとともに、落語を発表する場を提供して若い人のチャレンジを応援する。	大学生向けの落研選手権を開催する。	大学生（専門学校、高専、大学院含む）	12月15日	年1回	180	598	2,220	出場校数	校	14	R1	11	13	11	—	・市報 ・市HP ・新聞 ・市LINE ・市FB ・あまらぶFB ・チラシ ・ポスター ・ケーブルテレビ	受賞大学の学生を講師に迎え、市内小学校で落語の特別授業を実施。市民まつりにおいて、選手権で活躍した大学の学生による寄席の披露。			B	関東・九州から初参加大学があった一方で、例年より実施日が遅かったため、第1回から連続出場している大学が参加できず、目標数に達しなかった。来場者は180人に増え、地元ケーブルテレビで番組化する等、地域資源である「落語」を広めることができ、若い人がチャレンジできる環境を提供した。	連続出場している大学が参加しやすい日程を調整していく。また、選手権に参加した学生が、尼崎市内で活躍できる機会を検討する必要がある。	実施日の固定化を検討する他、尼崎城に関連して実施されるイベント等、注目を集める機会を活かして、学生の寄席を披露していく。	85%
2	あまらぶアートラボ運営事業	シティプロモーション事業担当	若い人の夢とチャレンジを応援する 市民の芸術体験を支える	平成27年度	若手アーティストの発表・創作の場として活用することで、若い人の夢やチャレンジを通じて、子どもたちを始めとする市民が芸術に気軽に触れること。	若手アーティストによる展覧会やワークショップ、トークイベントを開催する。	こどもから青年まで	通年	年5回（展覧会）	2,780	5,223	16,133	入場者数	人	3,400	R4	3,019	3,133	2,780	—	・市報 ・市HP ・市LINE ・アートラボFB ・新聞 ・雑誌 ・ケーブルテレビ ・チラシ ・アート業界のHPへの掲載	園田学園女子大学 （つながりプロジェクト） ※第4回目の展覧会にて			B	A-Labの出展作家で、国内外で活躍している人も増えていることから、尼崎市が夢を応援するまちというメッセージの発信に寄与しているが、A-Labで開催したワークショップやイベントの開催回数が少なくなった影響もあり、入場者数の減少に繋がってしまった。	市外から訪れる人の割合が市内から訪れる人の半分以上であり、市民が芸術に気軽に触れることができる場所としての周知も必要であると思われる。	子どもたちを始めとする市民が芸術に気軽に触れることのできる環境を作るために、生涯学習プラザなど市内の施設で、出張ワークショップ等を行っていく。	89%
3	文化未来奨励賞	シティプロモーション事業担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成30年度	芸術性の高い優秀な作品などを創作し、全国規模の活動を展開しようとしている若手芸術家を選考し、顕彰するとともに、市内で発表する機会を持てるよう支援を行う。	奨励賞受賞者が、市内においてワークショップや発表する機会を提供する。	40歳以下の芸術文化を行っている者	（募集期間）6月20日～7月31日 （表彰式）11月1日	年1回	1	1,237	2,854	応募者数	人	30	R4	—	—	19	—	・市報 ・市HP ・新聞 ・市LINE ・チラシ ・あまらぶFB ・アートラボFB ・あまらぶTwitter	—			C	平成30年度に始まった事業であり、まだ周知が十分に行えていない中、公募やノミネーターの推薦により、尼崎市に関わりのある新たな芸術家を募ることができたため	まだ十分な周知を行うことができていない。	平成30年度受賞者のワークショップや発表を行い、それを通じて芸術家及び事業の周知を広く行っていく。	—
4	公開レッスン・コンサート	シティプロモーション事業担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成30年度	市立中学校・高等学校の生徒が世界的指揮者である大植氏の指揮・指導を受けることで、若い人の芸術体験を支え、若い人の夢とチャレンジを応援する	世市立中学校・高等学校の生徒が世界的指揮者の大植英次氏より指揮・指導を受ける、公開レッスン＆コンサート。一般の方も鑑賞できる。	中学生・高校生	9月24日	年1回	1,100人	1,000	1,427	入場者数	人	1,300	H30	—	—	1,100	一般社団法人山岡記念財団から、教育振興基金に寄付いただいた分を市予算に充当	・市報 ・市HP ・新聞 ・市LINE ・チラシ ・ポスター	—			B	平成29年度に山岡記念財団主催で同事業を行った際の入場者数（800人）よりは増加しているが、目標指標としている入場者数に達しなかった。	特に市内外の中高生の吹奏楽部の生徒などに興味を持ってもらえるような告知方法を考えていきたい。	若い人の夢やチャレンジを応援するまちであるということを発信できる事業であるため、告知方法を検討しながら引き続き実施していく。	—
－	近松賞	シティプロモーション事業担当（文化振興財団補助）	若い人の夢とチャレンジを応援する 市民の芸術体験を支える	平成13年度	近松の功績を顕彰するとともに新たな演劇作品の発掘、次代の演劇界を担う優れた劇作家の育成を目的に実施する。	戯曲を募集し、審査を通過した作品を対象に選考会を実施し、大賞を決定する。また、大賞作品については、準備期間を設けて上演する。	全世代					—						上演準備											
5	新人お笑い尼崎大賞	文化特命担当（文化振興財団補助）	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成12年度	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたく芸能人を発掘かつ育成し、このまちの文化の発展と向上に寄与することを目的とする。	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたく芸能人を発掘かつ育成するため、コンクールを開催する。	若手芸能人など	8月10日～9月16日	年1回	373(漫才219組330名、落語43名エントリー)	2,266	—	エントリー数	組	834	H30	1,130	834	483	協賛団体の新規確保、入場料徴収	・市報 ・財団HP ・チラシ	—	財源の確保については実現可能な工夫に取り組んでいくことが望ましい。	平成30年度については、兵庫県政150周年記念事業の助成金を得ることができ、財源確保に努めることができた。	C	阪神電鉄の事業撤退（落語の部のみ）や協賛金の減に伴い、収支均衡を図るべく、外部経費の減や入場料徴収などエ夫しながら事業展開を行った。平成30年度については、兵庫県政150周年記念事業として採択されたことにより広く周知することが可能となった。新しい顔ぶれが毎年見られることから、この事業が広く浸透していると考えだと考える。	事業実施に必要な財源の確保及び周知方法	若い方への参加呼びかけと財源を確保する必要がある。	未実施
6	少年音楽隊事業	青少年課	若い人の夢とチャレンジを応援する	昭和37年度	豊かな情操と健やかな心を持った子どもを育成するとともに、本市の音楽文化の向上に寄与する。	合唱隊、吹奏楽隊、バトン隊、トランペット隊、ドラム隊の5隊で編成し、定期演奏会の実施の他、地域のイベントにも多数出演している。	青少年（小学校5・6年生等）	通年	—	240（H30隊員数）	13,287	10,627	隊員数	人	270	R2	259	250	240	楽器の寄付を毎年受けており、公費による楽器購入は行っていない。	・市報 ・市HP ・チラシ（市内小学校、公共施設等） ・ポスター ・小学校校長会	—			B	隊員数は近年、減少傾向にあるものの、平成30年度末の隊員数は240人を数え、目標水準に概ね到達している。（達成率88.9%）少年音楽隊の日々の活動を通じて、青少年の健全育成が図られるとともに、隊の認知度も上がり、隊員数の増加にもつながっていくものと考えている。	令和元年10月に青少年センターがひと咲きプラザ（旧聖トマス大学）に移転することに伴い、複数の隊が練習拠点を同施設に移すことから、引き続き良好な練習環境を整えるとともに、移転を機に隊員数が減少することのないよう活動内容の一層の周知を図ること。	当該事業は、隊員の保護者や教育委員会との密接な連携が不可欠であり、今後もこうした主体と連携を図りながら事業を推進していく。	—
7	白髪一雄記念室	シティプロモーション事業担当（文化振興財団補助）	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成25年度	尼崎市出身であり世界的に評価された抽象画家・白髪一雄の作品を展示し、功績を紹介する。	①第11回展示「白髪一雄と尼崎―木市呉服店の資料とともに―」②第12回展示「中国への憧れ」	全世代	①4月28日～9月17日 ②10月6日～3月17日	年2回	3,708 ①933 ②2,775	8,697	—	入場者数	人	3,675	H30	2,968	3,341	3,708	—	・市報 ・HP ・新聞折り込み ・チラシ	—	マンネリ化を防ぎながら、限られたスペースで来場者に満足してもらえる展示を行い、リピーターを増やす。	「あまっこアートギャラリー」や「市展」などに来られたお客様に、無料で案内したことにより、来場者増に繋がった。	A	来場者を増やす方策として、美術ホールの来場者に積極的に記念室への来場を促すことにより、目標入場者を達成したが、子どもの入場者が多かったため、今後は有料の入場者も増やす方策を検討する必要がある。	ギャラリートークなどを定期的に行い、展示作品をより深く理解してもらう機会を増やす。資料の閲覧や問い合わせに対応できるよう、関連資料の整理が急務である。	ギャラリートークやホームページによる紹介内容を充実させ、オリジナルグッズの種類を増やすなど、作品展示に付加できる魅力を工夫して行く。	98%
8	尼崎薪能・富松薪能	文化特命担当（文化振興財団補助）	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和55年度(富松は平成8年度から補助)	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸能への関心を高揚し、市民文化の振興を図る。	尼崎薪能：能楽「船弁慶」 富松薪能：能楽「巴」、狂言「文荷」	全世代	（尼崎）5月20日 （富松）7月26日	各年1回	1,400	3,575	—	参加人数	人	1,600	H30	（尼崎）700 （富松）中止	（尼崎）800 （富松）700	（尼崎）900 （富松）500	協賛金	・市報 ・コニュニティー掲示板 ・財団HP ・チラシ、ポスター	地元市民と協力			B	目標指数である参加人数は、目標値に達していないが、年2回の薪能は、市外からの問い合わせも多く、尼崎の文化の発信に大きく寄与している。	出演者の高齢化	引き続き伝統芸能の継承していく。	未実施

平成30年度文化関連事業個別評価表　（尼崎市文化ビジョン推進懇話会）

	事業名称	課名	取組の柱	事業概要							経費		評価指標				実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価				アンケート
				事業開始年度	目的	実施内容	（主な）対象世代	実施期間	実施回数（回）	参加人数（人）	H30事業費（単位：千円）	事業に係る人件費（単位：千円）	指標名	単位	目標	達成年度	H28	H29	H30	財源獲得の努力	広報	協働	これまでの課題や改善点	改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合
9	近松祭	文化特命担当（文化振興財団補助）	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和11年度	近松門左衛門の功績を顕彰する事を目的として、近松記念館で近松をテーマとする演芸等の行事を行う。	人形浄瑠璃、浪曲、人形劇、落語、踊りなど近松門左衛門ゆかりの演芸等上演する。	全世代	10月28日	年1回	500	1,315	—	参加人数	人	600	H30	600	400	500	協賛金	・市報 ・財団HP ・掲示板 ・阪急電鉄沿線ポスター ・チラシ	地元市民と協力			B	観客数も毎年会場一杯に集客しており地域に根付いた行事である。	近松協賛事業実行委員会役員の高齢化と財源確保	若い方への参加呼びかけと財源の確保	90%
10	近松ナウ	文化特命担当（文化振興財団補助）	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	市制70周年（1986年）を契機に、「近松のまち・あまがさき」を目指して、多彩な文化事業を展開。 その一環として「近松を現代に甦らせる」をコンセプトとして実施。	近松の世界を現代に甦らせようと、近松をテーマにした各種の催しをトータルでPRすることで、より多くの方に観賞、ご参加いただけるように努めている。	全世代	9月～3月	事業数18事業	66,737	1,343	—	事業本数	事業	17	H30	21	15	18	—	・市報 ・財団HP ・チラシ	民間の協賛団体の確保に努めている。	市内外への近松の情報発信について、具体的な方策の検討	近松ゆかりの鯖江市等に近松ナウ参加の呼びかけをした。	B	目標指数としている事業数を達成した。 新たな協賛団体を確保できたことは、情報発信の成果の結果と思われる。	事業数が昨年の15事業から18事業に増加したが、協賛団体の確保のため、引き続き周知の方法に工夫が必要である。	近松を顕彰し、本市の文化のシンボルとして近松文化の創造を図り、市内外へ向けた近松の情報発信に努める。	—
11	文楽・歌舞伎公演	文化特命担当（文化振興財団補助）	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	伝統芸能である人形浄瑠璃、歌舞伎を通じて近松芸術への理解を深める。	歌舞伎公演　中村橋之助改め八代目中村芝翫襲名披露公演 一、人情噺文七元結 二、口上 三、棒しばり 文楽・歌舞伎は1年毎に開催	小学生以上	7月25日	年1回	1,734	2,304	—	参加人数	人	（文楽）750 （歌舞伎）1,900	H30	（歌舞伎）1,348	（文楽）703	（歌舞伎）1734	—	・市報 ・財団HP ・掲示板 ・ポスター、チラシの配布 ・新聞広告	—	若い世代が興味を持って入場できるような工夫の検討	出演者に、若者に人気のある歌舞伎役者（片岡愛之助）で調整していたが、希望が叶わなかった。	B	目標指数である参加人数は、目標値に達していないが、伝統芸能の保存、継承の観点から、継続的に実施することは、重要な文化施策の一つとして評価できる。	効果的な宣伝・広報の開拓	次世代の若者に関心を持ってもらい、伝統芸能の保存、継承を担う。	83%
12	あまがさき歴史音楽祭	経済活性課	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成27年度	歴史的建造物に触れ音楽を通じ、市のイメージアップや地域への愛着・誇り・シビックプライドの醸成を目指している。	歴史的建造物を活用した市民参加型の音楽祭を実施する。	全世代	10月8日	年1回	1,800	—	66	来場者数	人	2,000	H30	1,000	400	1,800	クラウドファンディング	・市報 ・市HP ・FB ・チラシ	実行委員会による運営			B	市民まつりと同日開催であり、市民まつり会場と距離がありながらも、連携を取りながら市民の地区内の周遊を促す一助となっており地区に賑わいをもたらしていた。 目標には達していないが、事業開始以来最大の来場者数を獲得した。	平成30年12月より文化財収蔵庫が工事中であることから、今後の開催会場の選定が必要である。	一般公開された尼崎城址公園での開催も視野に入れ、より市のイメージアップや地域への愛着・誇り・シビックプライドの醸成を目指す。	89%
13	文化財収蔵庫企画展示事業	歴博・文化財担当	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成26年度	文化財収蔵庫が所蔵する資料を広く公開することにより、市民や子供たちが本市の歴史や文化財に関心を持つとともに、本市のシティプロモーションにも貢献する。	文化財収蔵庫が所蔵する資料を活用した企画展を、文化財収蔵庫企画展示室等で開催する。	全世代	通年	年3回	5,919	894	2,378	展示観覧者数	人	20,000	R4	11,779	11,836	5,919	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・新聞各紙 ・テレビ	—			C	評価指標は新博物館開館後を想定し高めの設定となっており、加えて、文化財収蔵庫が工事に伴い下半期休館となったため、指標に対する達成率は低位に止まっているが、アンケート調査結果は良好で収蔵資料を広く公開するという取組の柱に沿った事業は実施できており、加えて新聞等のマスコミにも多数取り上げられ、本市のシティプロモーションに貢献できているため。	文化財収蔵庫は平成31年度は通年で休館となるので、休館中にも収蔵資料を展示公開できるように、その方法を工夫する必要がある。	文化財収蔵庫はリニューアル工事を行い、令和2(平成32)年度に新博物館がオープンする計画となっており、新博物館ではさらに充実した展示活動を実施していく。	100%
14	歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業	歴博・文化財担当	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成26年度	まちづくりの核となる歴史遺産を活かし、市民との協働のまちづくりを展開し、情報発信することで、市民の地域への愛着を醸成し、尼崎の魅力を高める。	富松城跡の保存・活用を市民と協働で進めるとともに、富松城跡の歴史的価値や歴史遺産としての活用方策等を市民と共に考えるためのイベント等を開催する。	全世代	9月22日	年1回	69	120	2,407	事業参加者数	人	100	R4	101	208	69	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・毎日新聞 ・歴史街道パンフレット	富松城跡を活かすまちづくり委員会と連携し、その協力も得て実施した。			C	本年度はウォーキングイベントであったため参加者数は減じたが、アンケート調査での満足度は大変高かった。また、平成28年度に市が取得した富松城跡の保存と活用を市民と共に進め、歴史遺産としての価値を多くの方々に知っていただくという取組の柱に沿った事業も実施できているため。	富松城跡の歴史的・文化財的価値を広く市内外に発信に努めるとともに、富松城跡の保存・活用方策の検討を市民とともに進め、地域資源としてまちづくりに活用していく必要がある。	これまでは、富松城跡を広く周知するための単発的事業を行ってきた。今後は、地域住民や学校との連携を更に深め、富松城跡を地域資源として保存・活用していくための取組を進める。	100%
15	歴史資料公開活用事業	歴博・文化財担当	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成17年度	教育委員会が行ってきた歴史資料等の収集の成果を市民に還元し、本市が歴史豊かな文化都市であることをPRし、本市のイメージアップに貢献する。	文化財収蔵庫が所蔵する歴史資料・美術工芸資料等を活用した展示会を、尼信会館3階展示室を借用して開催する。	全世代	10月6日～11月11日	年1回	2,621	437	3,156	展示観覧者数	人	1,500	R1	1,302	885	2,390	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・新聞各紙	—			A	平成31年3月の尼崎城天守閣館を控え、江戸時代の尼崎城に関する展示を行ったため、観覧者数は増加し、アンケート調査結果も良好であった。また、文化財収蔵庫では展示できない美術工芸資料等を広く公開するという取組の柱に沿った事業も実施できているため。	文化財収蔵庫には屏風等の大型資料を展示できる展示ケース等の設備がないことから、他施設を借用して資料の展示公開に努めてきた。しかし、借用施設では展示準備や公開期間等の制約があり、主体的な事業実施は困難である。	文化財収蔵庫はリニューアル工事を行い、大型の美術工芸資料等の展示が可能な新博物館が令和2(平成32)年度にオープンする計画となっているので、現行事業は平成31年度で終了する予定である。	100%
16	わくわく体験ミュージアム事業	歴博・文化財担当	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成13年度	地域の歴史に関わる各種体験学習活動をはじめとする教育普及事業を、市民との協働で行うことにより、市民や児童生徒が本市の歴史・文化財に関心を持ち、地域に根ざした文化活動の促進に貢献する。	・市民向けの歴史講座の開催 ・学校教育と連携した児童生徒向けの歴史や昔のくらしに関する学習会の開催 ・体験を主とする夏休みの学習会の開催 ・学芸員と協働で体験学習活動を行う市民ボランティア養成	全世代	通年	年47回	3,059	39	3,504	事業参加者数	人	4,500	R4	3,684	3,780	3,059	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ	一部事業は、れきし体験学習ボランティアと協働で実施している			C	参加者数が減じたのは文化財収蔵庫が下半期休館となったことによるものであるが、市民や児童生徒を対象とした多彩な学習活動や学校教育と連携した各種学習活動、さらには市民ボランティアとの協働による事業実施という取組の柱に沿った事業が実施できているため。	文化財収蔵庫は平成31年度は通年で休館となるので、休館中の教育普及事業の実施、学校教育との連携などをどのように実施していくのか、その方法を工夫する必要がある。	博物館にとっては、展示と並んで最重要な事業であり、直接、市民や児童生徒と繋がっている事業でもある。加えて、新博物館では教育普及事業を行う施設・設備が充実することから、本事業はより多彩で、より市民・児童生徒の学習意欲やニーズに応えた内容へと高めていく。	未実施
17	古代のくらし体験学習会事業	田能資料館担当課	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和46年度	出土遺物の収蔵・展示による文化財の啓発にとどまらず、弥生文化をより身近なものとして理解するため、古代のくらしを体験できる事業を展開する。弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展に対する認識を新たにし、市民の歴史学習を支援するとともに、文化財に対する関心を高める。	・勾玉をつくろう（年3回） ・石の鏃をつくってとばそう！ ・銅剣をつくろう（2日間） ・弥生土器をつくろう（2日間）	全世代	通年	年10回	198	104	2,415	参加者数	人	200	R4	333	179	198	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・あまなび ・まるっとアマガサキ ・ぱど ・サンケイリビング ・kissPress ・尼崎市FB ・尼崎市LINE ・チラシ	市民ボランティアとの共催事業として実施している。			B	広報活動は発信媒体を拡充させ、実施事業の減により目標指標に達しなかったが、前年比で19人増となった。一回ごとの実施内容については参加者から高い評価を得ており、学習機会の提供に寄与している。	これまでの事業報告をもとに、マニュアルを作成し、それとともに事業内容を深化させていく必要がある。	事業内容をマニュアル化し、サポーターとの連携が円滑に進むよう取り組むとともに、事業数や内容の充実を図りたい。	99%

平成30年度文化関連事業個別評価表　（尼崎市文化ビジョン推進懇話会）

	事業名称	課名	取組の柱	事業概要							経費		評価指標				実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価				アンケート
				事業開始年度	目的	実施内容	（主な）対象世代	実施期間	実施回数（回）	参加人数（人）	H30事業費（単位：千円）	事業に係る人件費（単位：千円）	指標名	単位	目標	達成年度	H28	H29	H30	財源獲得の努力	広報	協働	これまでの課題や改善点	改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合
18	田能遺跡サポーター養成事業	田能資料館担当課	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成28年度	「田能遺跡サポーター」養成講座を実施し、その知識をもとにボランティアとして、復元住居の修復及び事業のサポート等を行う。「田能遺跡サポーター」を養成し、協働の取組を推進する。	・ボランティア養成講座 ・古代のくらし体験学習会の技術研修 ・学校等団体見学の際のサポート ・復元住居の茅葺き替え	全世代	通年	年72回	195	500	1,836	参加延べ人数	人	1,500	R4	532	195	125	—	・市報 ・市HP ・チラシ	—			C	実施する事業内容の変更等もあり、前年度より参加人数が減少した。	ボランティアの参加人数が減少している。ボランティア活動のさらなる活性化を図り、意欲的に取り組める工夫が必要である。	ボランティアがさらに円滑に活動に参加できるように体制を整備してゆく必要がある。	—
19	特別展・企画展事業	田能資料館担当課	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	特別展：昭和46年度 企画展：平成15年度	<特別展>日本文化の源流とも言える弥生文化に焦点をあて、各地域の代表的な出土品を展示し、田能遺跡との関連性について考察する。弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展を探り、弥生文化の重要性について周知を図ることにより、文化財保護への関心を高める。 <企画展>田能遺跡にみられる弥生時代を調査・展示することにより弥生文化に対する理解を高める。	<前期企画展>「弥生時代のくらし」 <特別展>「みんなのまわりの遺跡をさがそう～学校の下の遺跡～」 <後期企画展>「アクセサリー＊墓」	全世代	（前期企画展） 5月2日 ～ 9月2日 （特別展） 10月16日 ～ 12月16日 （後期企画展） 2月5日 ～ 4月14日	年3回	23,294	674	3,105	観覧者数	人	28,000	R4	26,003	28,782	24,294	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・あまなび ・ラジオ関西 ・ぱど ・サンケイリビング ・kissPress ・あにあん倶楽部 ・尼崎市FB ・チラシ ・東園田町会報	—			B	平成30年度は秋に台風等の天候不順の影響により観覧者数が伸びず、目標指標には達しなかったが、広報活動を広範囲に展開させたことにより、一昨年度並みの観覧者があり、文化財への関心を高めることができた。	観覧者数が伸び悩んでいるため、これまで実施されてこなかった田能遺跡の遺物資料について再整理し、遺跡の再評価が必要である。現在の弥生時代の研究成果と照らし合わせ、新たな視点で展示していく必要がある。	田能遺跡の資料を再整理し、資料の新たな発見や再評価をし、それをもとに市内外へ資料館の収蔵資料の公開、活用を図る工夫を継続する。	未実施
20	ティーンズサポートチケットPR事業	シティプロモーション事業担当	市民の芸術体験を支える 若い人の夢とチャレンジを応援する	平成25年度	尼崎市総合文化センターとピッコロシアターで開催される舞台公演などを10代の皆さんに安価に提供し、本物の音楽や舞台などの芸術に触れる機会をつくる。	1公演ごとに10席限定で500円のチケット販売を行う事業をPRする。	13～19歳	6月3日～3月24日	年26回	67	104	1,387	応募者数	人	200	R4	134	125	67	—	・市報 ・市HP ・神戸新聞 ・課FB ・チラシ	—	所管課評価のとおり、さらなるPRについて具体的な方策を検討が必要。	通常1名500円だが、5名まで1,000円のグループチケットを導入したが、実績はなかった。	C	公演によって応募者数にばらつきがあり、実績は目標値に達していないため。	対象者が10代の若者であるため、人気のある公演（バレエ等）と伝統芸能等の応募者に差がみられる。	市外の学校・施設等にも広報の場を広げるほか、グループチケットを導入する等PR方法を工夫していく。	67%
21	美術展事業（補助対象の自主事業）	シティプロモーション事業担当（文化振興財団補助）	市民の芸術体験を支える	昭和49年度	優れた芸術を紹介することにより、市民が芸術文化に対する意識を高め、生活に潤いをもたらす。	郷土作家の作品や優れた作家の作品を紹介する展覧会を開催する。①「荻原一青が描く　百名城手ぬぐいのすべて展」②「白髪一雄　没後10年展　水滸伝豪傑シリーズ」	全世代	①7月21日～8月19日 ②11月10日～12月16日	年2回	4,077 ①1569 ②2508	14,092	—	入場者数	人	4,500	H30	8,617	5,109	4,077	助成金獲得	・市報 ・HP ・新聞折込 ・チラシ等 ・新聞社・ラジオ等取材 ・情報誌・タウン誌掲載 ・インターネット媒体掲載	—	収益性の面や市民へのより文化度の高い展示を提供していく意義から、有料入場者が増加するような事業展開が望ましい。	広くPRできる展示内容を企画したが、結果的には有料入場者数は減少した。収益については、図録を含むグッズの売れ行きが好調であった。	C	開催日数によって目標設定や実績が異なってくるが、入場者数は、目標入場者数にやや到達できなかった。また、有料入場者数についても3割(昨年度5割)で、昨年度に比べて低かった。 展示内容は、尼崎ゆかりの作家による展覧会であったが、遠方からの来場者も多く好評であり、尼崎の文化を紹介し広めることができた。	・開催に必要な財源獲得が難しくなっている。 展覧会の企画内容・規模・回数など事業内容全体の見直しが必要である。 ・施設等ハード面が老朽化しているため、作品を展示することへのリスクが年々高くなっている。	・経費の軽減、助成金獲得など収支ともに努力を行うが、開催本数の見直しなども考慮していく必要がある。 ・ハード面については、早急に全体的な修繕等を行う必要がある。	98%
22	アウトリーチ事業	文化特命担当（文化振興財団補助）	市民の芸術体験を支える	平成24年度	市内の子どもたちが芸術を肌で体験・体感できる場を提供する。美術部門では、身体を使った創作の楽しさを体感する場を提供する。	尼崎市が誇るアクション・ペインター白髪一雄氏の画業を紹介しながら、その独創的な足で絵を描く描法を体験してもらう。	全世代（小学校高学年児童生徒中心）	6月12日 6月15日 7月24日 7月30日 8月7日 9月3日 9月12日 9月13日 1月25日	年9回	444	2,269	—	実施箇所	箇所（学校・園・公共施設等）	6	H30	7 （14回）	6 （10回）	9 （19回）	助成金獲得	・小学校校長会 ・小学校造形教育研究会	—			A	学校からの応募が減少傾向にあるため、公民館・図書館等の希望する館で実施を行い好評であった。	例年実施している学校以外にも参加してもらえるよう、新たなプログラムを導入する。	これまで子ども対象の実技を中心としたプログラムを展開してきたが、今後は子ども向けのレクチャー、大人向けのレクチャーなども展開し対象の幅を広げる。	未実施
23	演劇祭	文化特命担当（文化振興財団補助）	市民の芸術体験を支える 若い人の夢とチャレンジを応援する	昭和26年度	演劇団体に発表の場を提供し、一堂に会することにより相互交流と研鑽を図り、演劇を通じて文化の向上を図る。	尼崎市舞台芸術協会による演劇発表会を実施する。	演劇に取り組む学生や社会人など	2月2日 2月3日	年1回	（参加） 6団体 （入場） 357	909	—	出演者数	団体	8	H30	7	8	6	—	・市報 ・財団HP ・チラシ	—	事業の周知方法を工夫するとともに、適切な目標設定や事業実施のあり方について見直しを検討すべき。	・公演案内チラシに歴史のある演劇祭であることを内外に広く知らしめた。 ・公演案内チラシを市内の小学校41校、中学校17校、高校2校に配布した。	B	本事業の委託先である尼崎市舞台芸術協会も昨今の世代交代、演劇人確保に苦しんでいる中で各団体と協力の上で、開催している。	舞台芸術協会を作り上げてきた演劇人が高齢化となり、一般演劇団体の活動が少なくなってきていることから、早急なる世代交代を進め、新規の加盟団体を増やす方策など検討していく必要がある。	若い人が参加できるような環境を作る。	未実施
24	市展	文化特命担当（文化振興財団補助）	市民の芸術体験を支える	平成23年度	日頃より芸術文化に関心を持っている市民に成果発表の機会を提供し、市民の創作意欲の向上と芸術文化に対する意識の高揚を図る。	洋画、日本画、彫塑・立体・工芸、写真、書の作品を一般公募し、入選・入賞作品を一般公開する。	全世代	10月6日 ～ 10月14日	年1回	（参加） 247 （入場） 1,583	4,166	—	参加者数、入場者数	人	（参加） 265 （入場） 1,721	H30	（参加） 265 （入場） 1,721	（参加） 261 （入場） 1,512	（参加） 247 （入場） 1,583	—	・市報 ・財団HP ・チラシ	—	試行的に実施した改善効果が得られていない状況のため、市民にとって魅力ある事業内容についてさらなる具体的な検討が必要である。	審査員の変更やPRの拡充	B	PR先等を拡充し、一部審査員等の変更なども行ったが、それが結果の数字にあまり反映されていない。	毎年補助金が減額し、事業内容を大きく拡充することは難しいが、参加者の高齢化やマンネリ化が目立つ中、今後、若い層や新たな参加者の獲得を目指す必要がある。	当事業は他都市でも開催しており、参加対象も広範囲に及んでいることから、今後、新たな特典や分野などを設けることも検討し、内容に工夫を凝らし、市民にとって常に魅力ある事業として開催していく必要がある。	未実施
25	ふれあいギャラリー	文化特命担当（文化振興財団補助）	市民の芸術体験を支える	平成10年度ごろ	市内で地域に根ざした活発な創作活動を展開している文化団体に対し、発表の場を提供し、市民文化の振興を図る。	市内で創作活動している団体が、順次、グループ発表会を開催する。	全世代	①7月13日 ～ 9月17日 ②1月17日 ～ 3月11日	年2回	252 （出品者数） 3,095 （入場者数）	1,968	—	参加団体数	クール（週）	17	H30	17	15	16	—	・市報 ・財団HP ・チラシ	—	複数の団体との交流を促す取組は団体同士のコミュニケーションを生み、団体を活性化させることにより文化を推進させることに繋がる。	他団体との複合展示が可能かどうか等、希望する展示形態について、各団体にアンケート調査を行った。	B	前年度の利用状況をふまえ、募集クールの見直しを図り、参加しやすい日程で募集をかけたことにより、1クールを除く全クールでの申込利用があった。	1月の初旬は希望団体が少ないことから、後期の日程を再考する必要がある。	利用団体の固定化が続いていることから、新規の応募団体を開拓するとともに、アンケートの回答を参照しながら、時代とともに変化する実施形態に柔軟に対応していく。	83%

平成30年度文化関連事業個別評価表　（尼崎市文化ビジョン推進懇話会）

	事業名称	課名	取組の柱	事業概要							経費		評価指標				実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価				アンケート
				事業開始年度	目的	実施内容	（主な）対象世代	実施期間	実施回数（回）	参加人数（人）	H30事業費（単位：千円）	事業に係る人件費（単位：千円）	指標名	単位	目標	達成年度	H28	H29	H30	財源獲得の努力	広報	協働	これまでの課題や改善点	改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合
26	文化教室事業	文化特命担当（文化振興財団補助）	市民の芸術体験を支える	昭和49年度	開館以来、市民ニーズに応えながら幅広い各種講座を運営し、学習・創作・実践の場を提供する。	洋舞・邦舞コースをはじめとし、音楽、美術から文学や教養に至る多数の講座を開講している。	全世代	通年	8コース82講座（H31.3.31）	1,118	22,793	—	受講者数	人	1,040	H30	1,011	1,136	1,118	—	・市報 ・財団HP ・新聞折込 ・市内掲示板 ・チラシ	—	社会情勢が変化するなか、事業実施の必要性を含めて検討すべき。	市内施設が充実するなか、実施場所や文化振興財団の役割について、検討整理していく。	A	急速な社会情勢の変化の中で、人々のニーズの移り変わりも早く、その状況において、一定数の受講者数を確保している。	継続して受講している方の高齢化が課題であり、若年層への魅力ある内容や展開が必要と思われる。	ニーズを捉えた短期講座の充実を図り、気軽に伝統文化に触れる機会や、創作・ものづくりの楽しさを実感する場を提供する。また、将来的には、各講師と連携を図りながら他所での講座開講など、様々なカルチャー発信の中核を担う方向を目指す。	未実施
27	文芸祭	文化特命担当（文化振興財団補助）	市民の芸術体験を支える	平成21年度から移管	市民の文芸活動への参加を促進するとともに、作品研究会を通して文芸の振興と交流を図る。	広く川柳・短歌・俳句の文芸作品を募集し、優秀な作品は文芸作品集に掲載するとともに、文芸祭大会で、作品の研究会を行う。	全世代	6月1日～7月13日	年1回	975	3,462	—	応募作品数	件	1,337	H30	1,269	1,327	1,320	—	・市報 ・財団HP ・後援新聞 ・リーフレット	—			B	文芸祭大会への出席者は増加したが、応募作品数が減少した。	若い世代と市内からの応募作品数を増やす。	市内の小中学校への募集要項の配布を強化するなどし、応募世代の見直しを図る。	—
28	ホール事業（補助対象の自主事業）	文化特命担当（文化振興財団補助）	市民の芸術体験を支える	昭和57年度	尼崎市民の文化の向上	オペラ、バレエ、クラシック、お笑いなど、幅広いジャンルの事業を実施。また、子ども向けの事業も行っている。	全世代	通年	年29回	17,000	35,818	—	参加人数	人	18,236	H30	28,002	18,236	17,000	助成金獲得	・市報 ・財団HP ・掲示板 ・ポスター、チラシの配布 ・新聞広告	—			B	目標指標の参加人数は概ね達成している。	効率的な宣伝媒体の開拓	財団独自の企画を取り入れオリジナリティある事業展開を行う。	85%
29	育み・育ち・づなぐ音楽のまち尼崎事業	学校教育課	市民の芸術体験を支える	平成28年度	児童生徒による多彩な音楽活動を通じて、子ども達を育み、大人も育ち、市民にとって、愛着と誇りの持てるまちや未来につながるまちづくりを推進する。	あましんアルカイックホールで小・中・高児童生徒が演奏するコンサートを実施する。	小・中・高等学校の児童生徒 ・保護者 ・一般	11月10日	年1回	1,376	8,869	1,669	アルカイックホール1階席（1,352席）の利用率	%	80	H30	－	－	102	—	・市報あまがさき ・あまナビ ・教育総合センターHP ・FMあまがさき「市政広報ラジオ番組」	協働推進員制度と市政広報協力事業所			A	・昨年度までは小学校音楽会と合同開催で行っていたが、今年度から3校種の児童・生徒が一堂に会する形式になったため、評価指標を座席利用率に変更した。保護者以外の地域の高齢者などが多数来場したため、8割程度の予想を上回る来場者数となった。 ・コンサート内容も発達段階に応じた内容になっており、大人になっても音楽を通して愛着をもてる「まちづくり」に寄与することができた。	・2階席（468席）も開放するなら、更なる広報活動が必要となる。 ・参加校の交通手段を確保するのが難しい。	・出演校の地域の広報活動やマスメディアの活用をし、広く周知を進めていく。 ・出場校の選考方法なども長期的な視野に立って検討していく。	未実施